

++++++
「植物と人々の博物館メールマガジン」 第23号 2016年12月10日発行
++++++

小菅村も早い雪が降りました。ダイコンやカブは虫害で小さいものしか取れませんでした。漬物にして楽しんでます。麦やエンドウなど冬作物は健気に芽を出して、春に向かって準備しています。

味噌もなかなか良い出来で、ほうとう（すべて自作コムギ製粉）やみそ汁に使い始めています。西原の水車で大麦・団子麦を搗精していただきました。希望者に差し上げます。白乾法で搗精したヒエもいただきましたので、粥にしてみます。家庭用の精白機・粉ひき機で穀物の加工調整ができるようになり、楽しい自給が広がりました。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は「ナマステ」でお知らせしています。ご関心のあるご友人に転送などでご紹介いただき、「辺境」の地道な活動に薄情な「マスコミ」や「ギョウセイ」ではなく、顔見知り信頼の「ロコミ」で転送伝達していただけるとうれしいです。連絡先は下記メールアドレスです。

展示解説・作業予定日：12月21日（水）、1月12日（木）、19日（木）、27日（金）の予定です。

農閑期になりますので、森とむらの図書室（小菅・藤野）の蔵書や標本の整理などをします。年に1日、月に1日でも、未来への遺産である民具や図書の整理をご一緒していただければありがたいです。参加希望者は木俣にメールしてください。kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1. 日本村塾ゼミ／自給農耕ゼミ第8回

日時：11月27日（日）午前10～午後3時。中村さんのお庭、内容：脱穀作業とマクガバン・レポートについて報告しました。ピオ市で行いましたので、見学・参加者は延べ20名ほどでした。

2. 民族植物学ゼミ第4回 日時：12月1日（木） 藤野倶楽部・無形の家（森とむらの図書分室）。4名で原沢文庫の整理をしながら、座談しました。

3. シンポジウム「農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流」（現代文明の移行と伝統知・生業 ～第39回環境学習セミナー）の企画準備状況（企画につき良いアイデアがありましたら、お知らせください。）今後、詳細はHPに掲載します（<http://www.milletimplic.net/collegefores/2017sympov8.pdf>）。藤野世話人会で「藤野の街歩き」などについて打ち合わせをしました。12月21日に篠原の里に打ち合わせに行きます。

4. 第3回椎葉焼畑研究会、12月8日（木）、宮崎県椎葉村。「焼畑の作物、特に雑穀の栽培方法と現代的価値」（要旨）都市民は自然から離れて、生活の知恵や技能を忘れてしまっています。山村民の暮らしから学び、自ら生きるための食材を知り、豊かな食生活を取り戻すべきだと思います。これは古守豊甫先生、マクガバン・レポート、チャイナ・スタディの調査研究の結論ととても類似しています。山村民は伝統的な生活文化の知識体系を継承し、都市民に学びの場を与えてほしいと思います。ご要望により、特に焼畑の効果や雑穀ヒエについて触れます。講義ノートは、HP日本村塾に掲載します。

山深い村へは始発・終発便で脅威の日帰りでしたので、2時間ほど講義しただけで、尊敬する椎葉クニ子さんにもお会いできずに残念でした。今年の焼畑は見せていただき、収穫したてのそばを打っていただき、葉豆腐もいただきました。平家カブも良く育っていました（写真2）。川上さんと田邊さんも参加くださり久しぶりにお会いできうれしかったです。田邊さんは局長（観光協会会事務局長シイタケ館長）と呼ばれて照れていました。

FAO 世界農業遺産に登録したので、将来を開くための研究会です。とても参考になり、雑穀街道も登録できないかと考えました。

○予定

1. 日本村塾ゼミ

ご意見、ご要望をお知らせください。

1) 自給農耕ゼミ第9回 日時：未定

場所：未定 内容：読書会など。

参考図書：①デビット・ホルムグレン 2002 (リック・タナカほか訳 2012) パーマカルチャー—農的暮らしを実現するための12の原理／上・下／上・下、Commons、東京。②ビル・モリソン／レニー・ミア・スレイ 1991 (田口恒夫・小祝慶子訳 1993)、パーマカルチャー—農的暮らしの永久デザイン、農文協、東京。

2) 民族植物学ゼミ第5回 日時：未定

3) 扶桑園ゼミ第3回； 希望者があれば、くにとは何かや日本国憲法についてテキストをもとに話し合ってみたいと思います。

2. 雑穀・環境学習についての講義・研究会などの予定

2017年1月7日(土)、13時から、緑と水の市民カレッジ講習室、千代田区日比谷公園。東京都公園協会、緑と水の市民カレッジ講座、「目から鱗の雑穀の世界」、申し込み必要。

3 伝統知研究会は、12月8日に神田のエコプラス事務所で行います。

4. FAO 世界農業遺産に関して、12月16日(金)に、手続きなど聞きに農水省／生物多様性保全班を訪問します。

5. 埼玉の石坂産業を訪問します。食農を大事にした環境学習について懇談したいそうです。会社案内と社長のご著書をいただき、興味を持ちました。職業は異なりますが、類似した生き方に共感しますので、廃棄物処理の現場を見せていただくことが楽しみです。

6. 場の教育研究会 (ECOPLUS) の国際シンポジウムの予定

日時・場所：2017年1月21日(土)立教大学8101教室。22日(日)早稲田大学国際会議場

課題：グローバリゼーションと地域～持続可能な社会の形成に向けた「場の教育」

詳細は改めてご案内し、ご参加をお誘いします。この中で行われる分科会「生き方、暮らしの経済～生物文化多様性を活かす」を担当します。植物と人々の暮らしをつなぐ、座談会にしたいと思います。

7. 民族植物学第10号は著者校正中です。でき次第、希望者にはお送りします。なお、第11号の原稿締め切りは2017年3月末予定です。ご寄稿をお待ちしています。環境学習セミナーの報告、野生植物の利用、九州・沖縄の雑穀栽培、信仰論などを準備しています。

8. 『雑穀のインド亜大陸』は2017年3月を完成目標に、個人(主語私)の実経験をまじえながら、自由に書いています。未定稿ですが順次章ごとに公開していきます。下記の個人ホームページから引用してくださる場合は、「木俣美樹男(2016未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会(東京都日野市)：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

ミューゼス研究会／トランジション小菅(山梨県小菅村)：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

事務局長：黒澤友彦(山梨県小菅村) npo-inch@wine.plala.or.jp

植物と人々の博物館(山梨県小菅村)：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男(東京)、西村俊(石川)、藤盛礼恵(千葉)ほか

連絡先・相談係：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

公式HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

個人HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

写真1. 藤野 BIO 市の様子



写真 2. 椎葉村の焼畑研究会、焼畑の平家カブ

